

第2回目団体交渉を行いました



少し前進だが、不明点多し

3月19日（水）に電機・情報ユニオンは会社との第2回目の団体交渉を行いました。前回2月12日の交渉では、会社側からほとんどまともな説明が得られなかったことから、今回はユニオンから事前に質問状を書面で送り、交渉の場で回答を求めました。その結果、人員削減の理由その他について、一定の説明を聞くことができました。しかし定量的な説明に乏しいため、会社施策の妥当性についてユニオン側で吟味できるまでには至っていません。人員削減の理由については、グローバルな市場で勝ち残るために必要な施策であり、海外の競合他社でもやって

いることであるとの説明が繰り返されました。しかし対象者の選定基準や、もし期間延長がある場合、それが国内のみなのか海外も含めてなのかといった点はなどは明確になっていません。定期昇給見送りの効果については、営業利益に対し少なからぬ影響があることが説明されました。しかし数千億円規模の営業利益に対し影響するとすれば、100億円のオーダーと言う事になります。仮に100億円とすれば、グローバル約2万人の社員平均で年間50万円になります。たった1回の昇給で50万円も上がるとは考えにくく、どのような計算をすれば、そうなるのか、全く不明となっています。

国内は今後どうなるのか

ユニオンの森書記長からは、高い営業利益率ばかり追求してリストラを繰り返すような経営方針のままで、やがて西条工場も那珂工場も縮小や閉鎖となり、国内は衰退の一途ではないのかとの追求がありました。実際、仮に会社が勝ち残ったとして、その中に日本人の社員がどれだけ残っているのか全く見えないと言うのが、多くの社員に共通する疑念ではないかと思えます。資本主義経済で発展するためには、資本が有効に活用されて行くことが絶対条件です。ひとつは現在ある資本（人的資本や技術など）が無駄に損なわれず、きちんと育成されること、いまひとつは新たに投下される資本（お金）が有効に活用されるかどうかです。ところが日本国内においては、前者がリストラで棄損し続け、後者の資本投下も相次ぐM&Aなど、ほとんど海外ばかりです。これでは、日本国内が発展していく目途が立たないのではないのでしょうか。

こうした疑問点については、次回以降の団体交渉で、会社に説明を求めて行きます。

ルネサス懇

＜発行者＞
ルネサス関連
労働者懇談会
（ルネサス懇）
意見と情報は、
〒142-0043
東京都品川区二葉
2-20-8 染野ビル
（電機労働者
懇談会会付）
（03）6421-5323

電機・情報ユニオンへの相談は、

